

## D. 河川軸

<設計において景観形成のために、配慮された事項、考え方等をご記入下さい>

	指 針	基 準	景観形成上の工夫・配慮事項	適合
大 景 観	<p>□ 豊かな自然環境を有する河川景観と河川沿いのまちなみ、背景にひろがる赤城山等の眺めから構成される奥行きのある開かれた自然景観を保全する。</p> <p>□ その他の指針は類型共通指針による。</p>	<p>□ 河川に面する建築物等や屋外広告物は、対岸や橋上などからみる赤城山等と豊かな河川景観からなる奥行きのある眺望に配慮した配置掲出方法とする。</p>		<input type="checkbox"/>
		<p>□ その他の基準は類型共通基準による。</p>		<input type="checkbox"/>
小 景 観	<p>□ 河川周辺に分布する樹木や寺社などの景観資源と一対となった風景を保全し、橋梁や護岸施設、柵、遊歩道などの公共施設、河川沿いの建築物等や屋外広告物を含め、統一感の感じられる河川景観形成を心がける。</p> <p>□ その他の指針は類型共通指針による。</p>	<p>□ 川堤の並木、寺社、鎮守の森などの眺望の対象となる資源に隣接する建築物等や屋外広告物は、周辺の風景と調和した配置掲出方法とする。</p>		<input type="checkbox"/>
		<p>□ 河川沿いに立地する建築物等の色彩は、木材や石材、土などの自然素材色と共通する色彩を基調とするなど、河川及び河川敷の色合いと調和するものとする。また、河川軸に沿っての連続性にも配慮する。</p>		<input type="checkbox"/>
		<p>□ 橋梁や護岸施設、安全柵、遊歩道、公共サイン等の公共施設は、豊かな河川景観の一部として統一感のある配置掲出方法とする。</p>		<input type="checkbox"/>
		<p>□ 橋梁及び連続する工作物の色彩は、水＝青系などの単純な連想や周囲から極端に突出する高彩度色を避け、川面や河川敷の色彩と美しく調和する色彩を用いるよう心がける。</p>		<input type="checkbox"/>
		<p>□ 建築物等は、河川などの水辺空間に隣接する場合、建物の間から水辺を眺められる工夫や自由に歩行者が水辺に近づける歩路の開放など、水辺への意識の高まる敷地利用を心がける。</p>		<input type="checkbox"/>
		<p>□ その他の基準は類型共通基準による。</p>		<input type="checkbox"/>

※「景観形成上の工夫・配慮事項」が計画と整合しているか、適合審査を行います。